

4月から課が再編されました

令和2年4月から、「秘書広報課」と「企画財政課」が「市長公室（☎22-2203・FAX22-2244）」と「財政課（☎22-2221・FAX22-2244）」に再編され、「介護保険課」が「長寿いきがい課（☎22-2264・FAX22-2260）」に改められました。

業務内容については、市長公室は秘書、広報広聴、企画など、財政課は予算編成など、長寿いきがい課は高齢者福祉に係る業務全般をそれぞれ担当します。

また、新たなごみ処理施設整備の具体化に向け、「事業推進課（☎22-2287・FAX22-2247）」を設置しました。

問い合わせ

市総務課 ☎22-2231・FAX22-2244

徳島県指定有形民俗文化財

てすき 川田手漉和紙製造用具

指定年月日：1973（昭和48）年11月9日指定

1978（昭和53）年2月3日種別変更

所在地：吉野川市山川町翁喜台117（山川地域総合センター）

所有/管理者：吉野川市

山川町川田村で過去に使用されてきた手漉和紙製造用具のコレクションである。もとは旧川田公民館で収集、保存されていたが、現在は吉野川市山川地域総合センターに移し、保存、展示されている。

旧麻植郡（現吉野川市の大部分および美馬市木屋平）では、旧麻植郡川田村（現吉野川市山川町）だけでなく、木屋平、種野、東山、別枝、^{べっし}けた^{かみすき}山などで製紙業が盛んであった。川田山には紙漉などの製紙にまつわる地名が今も残る。阿波和紙の起源については、古代に当地域で勢力を持っていた豪族である忌部氏と結びつけた伝説もある。高尾家の文書記録によると、蜂須賀入国（1585、天正13年）時にはすでに川田村で製紙が行われていたと考えられている。保存されている用具類は、現在も製紙業を営む富士製紙で使用されていたもののほか、かつて川田村で製紙業を営んでいた家々から寄贈されたものもある。手漉和紙製造用具は、時代によって材質などに変化があるものの、形状は現代のものとも共通する部分が多い。阿波和紙製造技術の変遷を今に伝える貴重な資料である。



yoshinogawa city

知る故郷を !! 第23回



編集後記

桜も満開となり春爛漫となっていますが、新型コロナウイルス感染症のため学校やイベント、スポーツなどをはじめ、さまざまな所で影響が出ています。

そのような中、市内での明るい話題として吉野川市民プラザがオープンしました。皆さんは、もう利用されましたか？

自分も新書が揃った図書館へさっそく家族と出かけ、真つ新本をお借りしました。

家族には、図書館よりもアリーナにあるトレーニング室で汗を流して減量した方がいいと指摘され、そのデビューはいつになるやら思案中です。

まだ利用されていない方は、ぜひ見学を兼ねて来館してみてくださいいかがでしょうか。現場スタッフもお待ちしていますよ！（編）



開放感があり、落ち着いた空間が特徴の鴨島図書館